



田んぼには生まれた用水路ぞいのせまい道をしばらく歩いたところで、一度家に帰ってから自転車で来ればよかったと後悔した。

この道はいつも、なにかがくさったみたいなおいがある。こんな遠かったかな、細川くんとか。

まったく遠かったかな、細川くんとか。  
まったくいやになるわと、葉月はためいきをついた。

六年生のとき、たしかにおなじクラスだったけど、特別ながよかったわけじゃないし、高橋くんや宮地くんのように細川くんの家になんと近いし。

「じゃあ、鈴山さんおねがいね」そう言ってにやにや笑う増田先生の、口紅のついた黄色い歯を思い出して、胸の奥に重くてきたないどろどろしたもののがたまっていく。

いやがらせだもんね、これ。  
理由はわからない。

でも中学に入ってから、担任の増田先生に葉月はきらわ  
れていて、毎日いやみを言われ、いやがらせをされる。

クラスのみんなも、それをおもしろがってただ見てる。

夏休みが近いので「夏休みの心得」という小冊子がくば  
られた。

これを細川くんに届けないといけないんだけど、そうそ  
う鈴山さん細川くんと小学校でおなじクラスだったわねえ。  
だったわねえ、じゃないんだわ。わざとらしい。

わざわざ持っていなくても郵便で送るとかすればいい  
じゃん。

そもそもこの程度の内容、メールすれば終わりでしょう